

第1回鳥取県地震防災調査研究委員会（津波浸水想定部会）の議事概要

日時：平成27年1月26日（月）15:50～17:30

場所：県庁第2庁舎4階 第33会議室

出席者：松原部会長、西田委員、香川委員、富山委員、長戸委員

有識者として、鳥取大学から栢見教授、黒岩教授、澁谷特命准教授も出席

- 議題：1 想定する津波断層モデル・パラメータの設定
2 シミュレーション条件の設定
3 津波浸水シミュレーションの結果（仮計算）

議事概要（主な意見）

- 潮位は朔望平均満潮位の平均ではなく、最大値を設定した方がいい。
- 津波発生から応急復旧に着手可能な時間を想定するため、1ケースだけでもシミュレーション時間を長めに設定し、反射波等の影響が分かるように整理していただきたい。
- 平成23年度に設定した佐渡島北方沖断層付近にあるF28断層と、隣接するF36断層、F37断層について、連動性等の評価は別にしてシミュレーションを実施すべきではないか。
- 兵庫県南部地震では、断層傾斜が逆向きでも同じ応力で動くことが報告されている。断層の向きと連動性は必ずしも一致しない。
- 連動等により大きな津波が発生する可能性が少しでもあれば、できる限り安全側で浸水想定を行うべきではないか。
- 多くのケースを検討するのはいいが、複数の浸水想定結果を公表すると、住民が混乱することになるのではないか。
- 津波高は平成23年度の津波浸水シミュレーションと比べ低くなっているが、到達時間は短くなる地域がある。避難を検討するうえでは必要な要素であり、広報等の取組みも重要になってくる。
- ハザードマップを作成する上では、浸水域にとらわれずに自治会単位等のコミュニティー単位で検討してはどうか。
- 想定以上の津波が起きることも考慮して、平成23年度の津波浸水シミュレーション結果による現状のハザードマップや防災体制は維持すべきではないか。
- 平成23年度と今回のシミュレーション結果との違いは、津波断層モデルだけでなく地形データ等の影響も考えられるため定性的な評価を行ってはどうか。
- 文科省が実施している日本海沿岸部での探査調査結果から、F55断層の東側が南側に傾斜していることが判明したため（国交省が示したF55は北側傾斜）、断層傾斜を変更したモデルのシミュレーションを追加で実施すべきではないか。

議事結果

- 潮位は、近年の上昇傾向を踏まえ、過去10年の朔望平均満潮位の最大値（T. P+0.6）とする。
 - F28断層と隣接するF36断層、F37断層を一体とした津波断層モデルを検討し、シミュレーションを行う。
 - F55断層が南側に傾斜した津波断層モデルを検討し、シミュレーションを行う。
 - 追加モデルのシミュレーション結果の取扱いは、本部会で別途検討する。
- ※シミュレーション結果は第2回委員会で提示する予定。